

第7回 上質な寄港地観光の造成に向けた意見交換会概要

(MSCクルーズ社)

- MSCクルーズジャパンのルッソ・マッシモマネージャーより、主に以下の内容のプレゼンテーションが行われた。
 - 現在、MSCクルーズは、世界67カ国に寄港している。日本においても、2018年からMSCスプレンドィダの運航を開始している。
 - 今年のゴールデンウィークには、MSCスプレンドィダにより、日本の12の寄港地を乗客に提供した。2020年までには、8万人以上の乗客と30の寄港地を提供したいと考えている。
 - また、2019年には、東京に新たな事務所を設置しており、2020年のMSCベリッシマの寄港に向けた準備を行っている。
 - 寄港地の選定に際しては、アイテナリー、寄港地観光の充実度、受入れ施設の整備状況、そして長期にわたる信頼関係の醸成の4つの観点を重視している。

- 当日プレゼンテーションを行った各港（金沢港(金沢県、岐阜県)、下関港(下関市)、八代港(熊本県)及び那覇港(沖縄県))からは、各地域の特別な経験が出来る独自のツアーの提案が行われた。

- 各港のプレゼンテーションに対して、マッシモマネージャーから主に次のようなコメントがあった。
 - 金沢は大変魅力のある土地なので、新たなエクスカージョンとともに考えていきたい。また、将来的には、岐阜県にも訪れてどのような寄港地観光が設計できるか検討していきたい。
 - その他の寄港地に関しても大変興味を持っているので、寄港した際に何ができるのかを考えていきたい。